



平成 19 年 4 月 26 日

各 位

会社名 アストマックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 牛嶋 英揚
(コード番号：8734)
問合せ先 常務取締役管理部長 小島 健太郎
(電話 03-5447-8400)

平成 19 年 3 月期通期（連結・単独）の業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）の業績予想について、平成 19 年 2 月 2 日付「平成 19 年 3 月期（連結・個別）業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 19 年 3 月期連結業績予想の修正等（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

(記載金額は百万円未満切捨)

| | 営業収益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|------------------------------|-------|------|-------|
| 前回予想 (A) | 1,009 | △93 | △144 |
| 今回修正 (B) | 982 | △93 | △100 |
| 増減額 (B - A) | △27 | △0 | 44 |
| 増減率 | △2.8% | - | - |
| (ご参考) 前期実績 (平成 18 年 3 月期) | 1,856 | 810 | 495 |

(注) 海外連結子会社にて営業投資事業における損失が発生したため、営業収益、経常利益、当期純利益ともに連結業績が単独業績を下回る結果となっております。

2. 修正理由

(営業収益)

当期の営業収益は前回予想より 27 百万円減少し、982 百万円となる見込みです。事業の種類別の修正理由は下記のとおりです。

商品投資顧問事業

当社の開発した商品インデックス「AMCI」連動型運用プログラム及び商品裁定型運用プログラム「アストジェネシス」の運用は順調に推移しました。一方、商品トレンドフォロー型運用プログラム「アストプレリユード」及び金融商品トレンドフロー型運用プログラム「ファイナシヤル・アストプレリユード（有価証券を除く部分）」につきましては、運用収益率の悪化により解約が発生し運用資産は減少しました。当事業部門全体の運用資産（平均資産残高）は前年度の82億円からは約30%弱増加したものの前回予想の116億円には達せず105億円となりました。これに伴い、営業収益は前回予想より2百万円減少し、114百万円となる見込みです。

なお、商品オプションを利用した新規運用プログラムにつきましては平成19年3月末に運用を開始いたしました。

証券投資顧問事業

複数資産への投資をポートフォリオにて行うファンド・オブ・ファンズ運用が開始され、順調に運用資産を伸ばしましたが、市場中立型運用プログラム「ファイナシヤル・アストシンプオニー」及び証券トレンドフォロー型運用プログラム「ファイナシヤル・アストプレリユード（有価証券部分）」につきましては運用収益率低迷により解約が発生しました。当事業部門全体の運用資産（平均資産残高）は前年度の61億円からは約60%弱増加したものの前回予想の100億円には達せず97億円となりました。この結果、営業収益は前回予想より1百万円減少し43百万円となる見込みです。

なお、日本株ロングショート型新規運用プログラム及び証券オプションを利用した新規運用プログラムは共に、平成19年3月末に運用を開始いたしました。

ディーリング事業

主要取引先である東京工業品取引所等日本の商品先物市場における上場商品の取組高や出来高の減少傾向に歯止めが掛からず当社のようなマーケットメーカー的ディーラーにとり収益獲得が難しい状況が続きました。この結果、営業収益は前回予想より9百万円減少し803百万円となる見込みです。

なお、期中に退職したディーラーの補充及びディーラーの育成のために平成19年3月末までにディーリング経験者及びトレーニーの採用を決定いたしました。

営業投資事業

自己勘定での証券投資においてはオプション取引における平成19年2月及び3月の収支が悪化したこと等から、営業収益は前回予想から14百万円減少し21百万円となる見込みです。

なお、遅れていた当社運用ファンドへの自己投資につきましては平成19年3月末に実施いたしました。

(営業費用)

営業費用は、賞与・インセンティブ給の減少及び東京工業品取引所等の定率会費の引下げがあったため前回予想より9百万円減少し999百万円となる見込みです。

(営業外損益)

営業外収益は受取利息及び為替差益等が予想を上回ったため、2百万円増加し4百万円となる見込みです。

営業外費用は、三井物産フューチャーズ株式会社の子会社化の延期に伴い借入金に関わる銀行手数料の当期計上分が一部で済んだこと等で、前回予想より 16 百万円減少し 81 百万円となる見込みです。

なお、計上済みの銀行手数料は平成 19 年 3 月末に取引銀行と借入契約を締結したことに伴ない発生したもので銀行手数料の残高の支払いは借入れ実行時（クロージング時）に発生する予定です。

(特別利益)

今期の連結純損益がマイナスとなることに鑑み、当社役員より役員退職慰労金の受取りを放棄する旨申し出があり、役員退職慰労引当金を取崩し、28 百万円の特別利益を計上する予定です。

以上の結果、経常利益は前回予想のとおり△93 百万円、当期純利益は前回予想より 44 百万円増加し△100 百万円となる見込みです。

3. 平成 19 年 3 月期単独業績予想の修正等（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

(記載金額は百万円未満切捨)

| | 営業収益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|------------------------------|-------|------|-------|
| 前回予想 (A) | 1,043 | 17 | △33 |
| 今回修正 (B) | 1,013 | △7 | △22 |
| 増減額 (B - A) | △30 | △24 | 11 |
| 増減率 | △2.9% | - | - |
| (ご参考) 前期実績 (平成 18 年 3 月期) | 1,802 | 832 | 390 |

4. 修正理由

連結業績の予想数値の修正とほぼ同様の理由です。

5. 期末配当について

当社では従来から連結純利益の 30%を目処に株主の皆様へ利益還元を行う方針としておりますが、前述のとおり連結純利益がマイナスとなる見込みです。従いまして誠に遺憾ながら期末配当につきましては平成 19 年 2 月 2 日付「平成 19 年 3 月期（連結・個別）業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり見送りとさせていただきます。

(注) 本修正業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績がリスク要因や不確実な要素によって前述の数値と異なる結果となる可能性があります。

以上